

## 綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

# JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA  
JUNIOR CHAMBER  
OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

WEB版  
Vol.509

発行責任者 後藤 洋孝  
編集責任者 丹治 史博  
発行日：2019年3月

## 2019年度スローガン

# 紡げ!! 未来を!!

～今、私たちができることを～

理想の社会を創造する為に一人ひとりが当事者意識を持ち、  
今、自分が出来る事を精一杯やることで、明るい未来へ繋がることを確信する。

### ■はじめに

福島青年会議所は、明るい豊かな社会を目指し未来に繋げるべく、地域の魅力や文化の発信、郷土愛の醸成や未来への希望を創出するべく活動して参りました。



第56代理事長  
後藤 洋孝

我々が、潜在的な魅力や伝統文化など「福島」のイメージを強く発信し続けることで、「ふくしま」に住まう人々や故郷とする人々の誇りとなり、「ふくしま」の未来を担う人々がより自由に未来へ羽ばたくことができることを確信しております。

そして、我々の「福島」を誇りとする熱い想いを市民に浸透させ、市民から「せかい」へ拡散することで、「せかい」の人々が思う「ふくしま」に対する認識をより良いものへ変革することが出来ると確信しております。

福島青年会議所が、明るい未来へ紡ぐべく、新たな地域の課題を見だし、活動していくためには、これまでの活動を踏襲しつつ、今ある地域の課題に向き合い、持続可能な解決策を模索し、子ども達の希望、地域の誇りを紡ぐべく運動を展開していかなくてはなりません。

### ■未来に紡ぐために

福島青年会議所が運動を継続させていくためには、未来の同志へ想いを紡いでいく必要があります。そのためには、活動のみならず、想い、メンバーの品格を含め、市民に広く周知し、地域にとって必要な団体であることを発信しなくてはなりません。

まずは、会員自身が青年会議所運動の魅力を理解し、積極的に活動するべく想いを醸成させるために、メンバー同士が交流する機会を充実させて参ります。そして、身近な家族や友人から「JCIってカッコいいな」と評価してもらえるように、会員一人ひとりが己を律し、品格ある行動と発信を行い、自らの学びのみならず、後輩へ教えられる人財へとメンバーの意識を変革することで、地域の人々が自ら参加したくなる組織へ成長させていきます。

### ■子ども達のために

「福島」の子ども達が将来、様々な「せかい」へ羽ばたき活躍してゆく時、自分が育った土地の思い出や様々な経験、自らが育った地域の魅力が、彼らを支える誇りとなると確信しております。

地域を子ども達の誇りとするためには、子ども達が地域の魅力や文化に触れる機会を創出し、地

域が子ども達の自慢となるよう、郷土愛を醸成しなくてはなりません。

そして、無限の可能性をもった子ども達が未来の自分を見つけるため、未来に繋がる、「きっかけ」となる、機会を創出し、将来進むべき「せかい」を見いだす一助となる運動を展開いたします。

生まれ育った「福島」が未来を担う子ども達の夢を自由に掴み取る推進力となり、子ども達の誇りへと変革させるために、子ども達の未来を紡ぐ運動を推進して参ります。

### ■誇りを紡ぐために

多くの祭事は、そこに住まう人々の誇りとなり、郷土愛を醸成する一因となっています。

しかしながら、どんな伝統や文化もそこに係わらなければ、愛着も想いも生まれません。

我々が、伝統文化と人々を繋ぐパイプ役となり、古くから地域に根ざす熱き想いを継承し、「暁まいり」、「わらじまつり」、「わらじつくり」を一つに紡ぎ発信することで、祭りや地域の人々を繋ぎ、祭りを人々の誇りにできると確信しております。

そして、地域の人々を更に巻き込み、郷土に対する想いを今以上に醸成するために、伝統や格式、固定概念という壁を乗り越え、市民のための「おらがまちの祭り」として、次の世代、さらに次の世代へ脈々とこの誇りを伝承していけるよう運動を展開して参ります。

### ■地域の魅力を紡いでゆくために

そこに住まう人々にとっては「あたりまえ」である魅力が「福島」には多く存在します。「福島」を魅力あふれるまちとして、発信してゆくためには、「あたりまえ」のこととして意識の中に埋没してしまった地域の特性、季候、風土、産業、歴史、街並みなどの魅力を掘り起こし、事業を通じて発信していくことで、「おらがまちの自慢」としなくてはなりません。

また、これまでに掘り起こした魅力を「あたりまえ」に戻さぬよう、地域へ発信し続けるために、市民と共に事業を持続可能な課題解決策として更に地域へ浸透、定着させなくてはなりません。

さらに、地域で活動する団体として、被災時の経験を活かし、心構えと即時対応可能な体制を整え、行政や関係団体との連携と地域の運動へ積極的な参画することで、地域へ貢献して参ります。

### ■メンバーを紡ぎ、地域と繋ぐために

時代の流れと共にメンバーが青年会議所へ求めるニーズも変化しており、組織としても意識変革を求められていると感じております。慣例や固定概念にとらわれず、新たな試みを加え、時代に対応したメンバー間交流や、資質を向上させる機会を創出、提供することで、JCを楽しめるメンバーを増やし、福島青年会議所が所属する意義のある組織として成長させなくてはなりません。そして、福島青年会議所メンバーを結束させ、愛すべき「福島」の課題解決のために一丸となって取り組める組織を構築して参ります。

また、我々は地域と共に活動しており、その繋がり方も時代と共に変化している中で、時代に即した地域との効果的な繋がり方を模索し、福島青年会議所を更に身近に感じてもらえるよう、我々の活動と想いを発信して参ります。

### ■継続事業から持続事業へ

青年会議所は、地域の問題に対し向き合い解決する手法として事業を展開しています。

事業を青年会議所が求める持続可能な課題解決策とするためには、課題解決策を市民へ落とし込み、市民自らの手によって維持、継続出来るようしなくてはなりません。現在継続している、円熟した事業を市民へ繋ぐべく、事業内容を整備し、継続事業を市民の手による持続事業へ移行して参ります。

### ■結びに

我々は「福島」というバトンに希望に満ち溢れたものとして、これから「せかい」に羽ばたく未来の人々へ繋げなくてはなりません。

文化を誇りに、魅力を自慢に醸成し、「福島」に住み暮らすことが自慢と誇りとなるために、メンバー全員が当事者意識を持ち、理想を探求し続

け、地域の課題に向き合い、解決してゆくことで、「福島」を最高のプレゼントとして、未来の人々へ紡ぐことが出来ると確信しております。

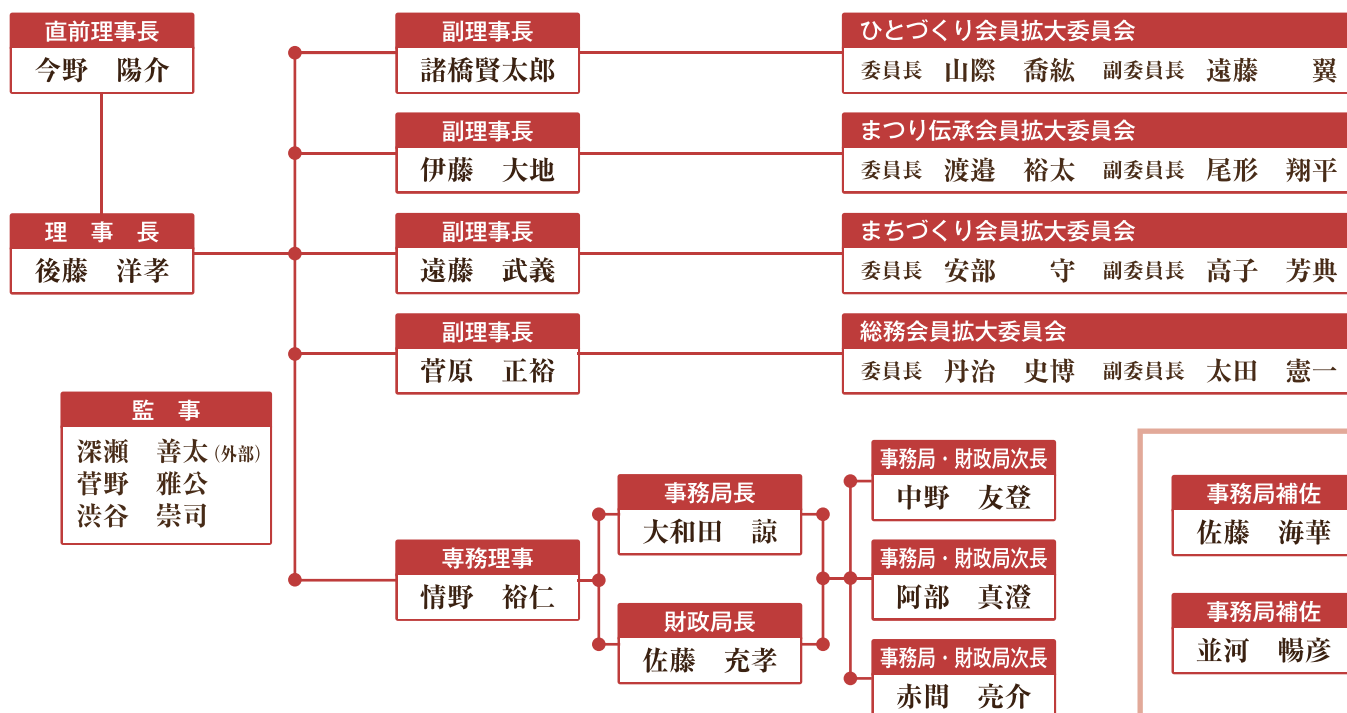
この「福島」に住める人々のために、子ども

達のために、そして自分たちのために未来に紡ぐ運動を展開していくことをお誓いし理事長所信と致します。

## 人間が想像できることは、人間が必ず実現できる by ジュール・ヴェルヌ



### 2019年組織図



# ひとづくり会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

子ども達たちのため・  
ふくしまのため・  
自分のため やったれ!!

1. 児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業の実施
2. 会員拡大運動の実施 拡大目標 5名
3. 10月例会の開催
4. 報告書の作成

ひとづくり会員拡大委員会は、子ども達が夢中に、経験が自信に、自信が自慢に出来る事業を通じて、様々な経験や刺激を提供します。一人ひとりがふくしまへの郷土愛と将来の夢を抱けるよう応援、育成しふくしまの子ども達が自分の故郷を自慢できる社会の実現をします。

副理事長 諸橋賢太郎

委員長 山際 喬紘

副委員長 遠藤 翼

委員	阿部 知浩	佐藤 卓宏
	尾形 彰彦	澤田 健
	SAINBUYAN ODBAYAR	高野 智宏
	酒井 隆弘	高橋 貴之
	坂下 真愛	高橋 美博
	坂本 幸司	竹内 潤
	佐藤 一樹	山尾 祥大

# まつり伝承会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

まつりのため・ふくしまのため・  
己のため・・・やったる!

1. 福島の伝統文化を伝え故郷の魅力を発信する事業の開催
2. 地域団体とのまつりを活かした交流の推進
3. 福島わらじまつりの発展に関わる事業への参画
4. 会員拡大運動の実施 拡大目標 5名
5. 暁まいり福男・福女競走の実施と移行準備
6. 9月例会の開催
7. 報告書の作成

「わらじまつり」が全国的に認知され、福島を代表する祭りとなってきました。しかし、時代の経過と共に地域の繋がりが薄くなり、まつりの由来やまつりの歴史の意識が失いつつあります。委員会事業を通して市民一人ひとりが「わらじまつり」の歴史や文化に触れ、福島のソーシャルストックである「日本一の大わらじ」を日本、そして世界へ発信すべく、関係団体と協力し、故郷の祭りである「わらじまつり」や伝統ある「暁まいり」を開催し、福島を盛り上げて参ります。

副理事長 伊藤 大地

委員長 渡邊 裕太

副委員長 尾形 翔平

委員	安齋 源	丹治 久仁
	尾形優一郎	番匠 啓太
	菅野 太喜	福井 誠
	菊池 翔太	藤井 守
	清水 達馬	柳沼 綾
	白坂 洋夢	吉田 潤平
	関谷 竜也	

# まちづくり会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

やるからには全力で！  
～すべてを楽しくやっちゃおうよ～

1. 地域社会の健全な発展を目的とした事業の開催
2. 災害時支援相互協力協定における対応と準備
3. とうろう流し花火大会の設営・運営・参画
4. 信夫山パークランニングレースの実施と移行準備
5. 会員拡大運動の実施 拡大目標5名
6. 2月例会の開催
7. 報告書の作成

我々の住むまち福島は、豊かな自然や豊富な果物が有名なまちであり、また、伝統文化が古くから息づいた魅力あるまちでもあります。しかし、その素晴らしい魅力や平穏な生活が市民にとってはあたりまえになっております。身近にある福島の美しい自然や伝統文化は、福島の財産であり、その財産に市民一人ひとりに気付いてもらうためにも、強い絆で結ばれた同志と共に、福島の魅力を掘り起こし、それを次世代へ繋げることにより、明るい未来を紡ぐまち「福島」を実現します。

副理事長 遠藤 武義

委員長 安部 守

副委員長 高子 芳典

委員	阿部 敏幸	神保 卓朗
	石郷岡 武	土屋 令雄
	小林 秀平	仲村 周将
	斎藤 秀人	並河 暢彦
	佐藤 海華	山本 英佑
	佐藤 秀真	

# 総務会員拡大委員会



## ■委員会スローガン

そして輝く ULTRA 総務 Hey!  
～やったれ! Attractive Outgoing!～

1. 総務に関わる一切の業務及び諸会議の議事録作成
2. 福島JCに関する広報活動(対内・対外を含む)
3. 例会の設営・運営1月・3月・4月・5月・6月・7月・8月・11月・12月
4. 新年会・創立記念祝賀会・卒業式の開催
5. 全国JCネットワークとの交流
6. 会員拡大運動の実施 拡大目標5名
7. 報告書の作成

今年度で56年目を迎える福島青年会議所において、継承する歴史を発展的に紡いでいくために、LOM運営を堅実に支えること、地域の魅力を最大限に表現する福島青年会議所の事業を効果的に発信していくことに奮励してまいります。まずは、会員間の交流を深め、個人個人の成長を促すために、懇親や学びの機会となる例会を会員が出席したくなるように楽しさも加えて設営し、組織の団結力とJC活動の質を高めます。さらに、福島青年会議所の事業が地域のイメージアップに繋がる充実した内容で実施される助けとなるべく、魅力的な情報発信の基盤づくりに力を入れます。また、組織の歴史を紡ぎ地域での活動を円滑にするために、新年会や創立記念祝賀会を開催し、JCの強みでもある世代を超えた絆を強固にします。そして、組織の発展とリレーションに貢献された卒業生に敬意と感謝の気持ちを伝えるために、厳粛で思い出に残る卒業式を開催し、卒業生の晴れやかな門出を祝う場を設けます。さらに、JC運動の効果を高め継続していくために、共に活動する会員を増やし、拡張的なJC運動を継続します。地域の方々に求められ続け、一員であること、所属していたことがより誇らしく思える組織となるように、総務会員拡大委員会は、福島青年会議所の事業の魅力的な発信に力を尽くし、「せかい」の多くの方々に地域の魅力や文化を伝えることで、明るい未来を紡ぐまち「福島」を実現します。

副理事長 菅原 正裕

委員長 丹治 史博

副委員長 太田 憲一

委員	浅野 紘太	齋藤 栄太
	井上健太郎	佐藤 大吉
	菅野 誠也	芝田 裕哉
	菊地 幸治	新村 隆文
	駒田 晋一	野尻 伸吾
	紺野 秀元	渡辺 和典

## 綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

# JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA  
JUNIOR CHAMBER  
OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

## WEB版 Vol.510

発行責任者 後藤 洋孝  
編集責任者 丹治 史博  
発行日：2020年1月

## 2019年度 事業報告

### 第56代理事長 後藤 洋孝

#### ■一年を振り返って

福島青年会議所が、明るい未来へ紡ぐべく、新たな地域の課題を見だし、活動していくためには、これまでの活動を踏襲しつつ、今ある地域の課題に向き合い、持続可能な解決策を模索し、子ども達の希望、地域の誇りを紡ぐべく一年間活動してまいりました。

様々な事がありましたが、一つ一つ解決していくことにより、確実に組織としての力が高まったと確信しております。

#### ■未来に紡ぐために

本年も13名の新しい仲間を迎える事ができました。福島青年会議所の未来を担う人財を迎えることができ嬉しく感じております。そして、本年はメンバーの家族が積極的に青年会議所の事業に参加してくれました。一番身近な市民に「JCってカッコいいな」と思ってもらえたと感じております。もし、今年の体験をきっかけにメンバーの子供たちが、我々の運動を将来繋いでくれたら、これほど嬉しいことはありません。

#### ■子ども達のために

本年も「信夫山」や「わらじまつり」など福島市のシンボル、文化を広く地域の子供たちへ発信いたしました。また、不自由な生活を体験することにより、今ある「あたりまえ」に感謝するところを醸成できたこと嬉しく思います。なにより、多くのメンバー、OBの子供たちが

我々の事業に参加し、郷土愛を醸成してくれたことを嬉しく思います。

無限の可能性をもった子ども達が未来の自分を見つけるため、未来に繋がる、「きっかけ」となる、機会を創出し、将来進むべき「せかい」を見いだす一助となる運動が展開できたことを誇りに思います。

#### ■誇りを紡ぐために

わらじまつりが刷新され、ふくしまのまつりに対する我々の関わり方も大きく変化しました。大きな変化の渦の中、福島青年会議所になった役割は非常に大きいものだったと思います。まさに、地域の人々を更に巻き込み、郷土に対する想いを今以上に醸成するために、伝統や格式、固定概念という壁を乗り越え、市民のための「おらがまちの祭り」として、次の世代、さらに次の世代へ脈々とこの誇りを伝承していけるような運動を展開できたと確信しております。

#### ■地域の魅力を紡いでゆくために

今回、市民と共に事業を持続可能な課題解決策として更に地域へ浸透、定着させるべくパークランニング実行委員会を立ち上げる事が出来ました。

福島青年会議所が作り上げた、地域の問題解決策が市民の手により継続していく一步を踏み出せたと感じております。

さらに、台風19号災害において、被災時の経験を活かし、行政や関係団体との連携、即時支援体制を整え、災害支援を行う事ができまし

た。災害が発生したことは残念ではありますが、我々が災害時に地域のために活動できる団体であるということを実証できたと確信いたしました。

### ■メンバーを紡ぎ、地域と繋ぐために

青年会議所メンバーが求めるニーズに対応し、資質を向上させる機会を創出、提供するべくトレンドを反映した講演、災害訓練など様々な例会を開催してまいりました。出欠の取り方の変更を行い例会の出席に関する意識変革も行いました。そして、それぞれをデータ化、見える化を行い、ニーズや課題を次へ伝える取り組みを行いました。本年が、愛すべき「福島」の課題解決のために一丸となって取り組める組織を構築する一助となったと確信しております。

### ■継続事業から持続事業へ

事業を青年会議所が求める持続可能な課題解決策とするために、課題解決策を市民へ落とし込み、市民自らの手によって維持、継続するた

めの仕組みを構築する事ができました。

一部であります、事業内容を整備し、継続事業を市民の手による持続事業へ移行出来たと感じております。

### ■結びに

私は、福島青年会議所に入会してから7年という時間が過ぎました。近年は、入会歴10年以上の方が理事長を担われていた中で、歴が浅い私が理事長を全うできるのか、不安がありました。無事一年間全うすることができました。

本年は様々な事象がありましたが、「福島」に住める人々、福島青年会議所の未来へ紡ぐ運動を展開できたと確信しております。そして、私の思いが、次世代を担うメンバーに紡がれ、ふくしまの未来を担う組織へ成長することを切に願っております。

最後に56代理事長という重責を担うにあたり最後の最後までご支援いただきました、すべての皆様に心より感謝申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。

# 紡げ!! 未来を!!

～今、私たちができることを～



# 事務局

## 事務局長 大和田 諒

2019年1月1日、後藤洋孝理事長が掲げるスローガン【紡げ!! 未来を!!】～今、私たちができることを～の基に、我々の活動が始まった。

### 【事務局とは?】

初めにJC = 青年会議所では、運動は理事長。運営は専務理事という言葉がある。

その中で事務局は運動と運営を噛み合わせる歯車とさせていただくと分かり易い。

### 【2019年度を総括】

イレギュラーが多かったという意見をよく聞くが、JC運営の中心である事務局にいた私はそうは思わない。

街の経済、景気、人の動き。

様々な状況を鑑みた際に今年のような動きが起こることは然るべきことだ。

この事象は来年以降も止まらないだろう。

イレギュラー=悪いこと。では決してない。

イレギュラーは、時にムーブメントを起こす。

SDGsの広がりもそうだが、国立のピッチでわらじ

まつりが披露されること、福島市出身の古関さんの朝ドラが放映されることを数年前に全て予想していた人はおそらくいないだろう。

間違いなく【良い意味】でのイレギュラーが福島に活気を与え始めているのだ。

### 【事務局運営のポイント】

- ①一年間安定した出力を続けること
- ②先を予測したスケジュール管理、全体調整
- ③各種事業、遠征への参加
- ④徹底した時間管理
- ⑤真由美さん、次長・補佐への感謝

### 【最後に】

頂いていた【2019年を振り返って】というテーマに対する答えを書かせて頂き締めたいと思う。

⇒ただただ早かった。

※情野専務と1週間ぶりに会うだけで、凄く久しぶりに感じたことがこの1年を表していると思う。

それでは、皆さま一年間ありがとうございました。また来年もよろしくお願い致します。

# 財政局

## 財政局長 佐藤 充孝

財政局は、LOMが事業面と財政面における健全性と公益性を保ちつつ、公益法人会計基準に基づいた適正な会計処理と各種運動を円滑に展開できるよう財政審査会議等を通して議案書等をチェックすることが主な任務となります。

今年度の財政審査会議には委員長にも出席していただき、会議の中で直接意見をやりとりさせていただきました。時には、担当副理事長、副委員長にも出席していただき、夜遅くまで修正点等の話し合いをしました。福島青年会議所の財源である会員の皆様からお預かりする貴重な運営費を適切に活用するためには、財政局が公正中立な立場で、適正な事業予算・事業計画かどうか、正確な事業決算書・報告書であるかの審査が必要です。その審査の上で、各委員会に資料を作成していただくことで、一貫した会計と透明性のある財政運営を

行うことができます。そのため、非常に細かい指摘事項や時には議案書に大きな変更を加える必要がある指摘をし、特に委員長には大変苦勞をかけたかと思えます。しかし、皆様のご協力のおかげで、事業実施や予算執行に関して大きな問題もなく一年を終えることができました。

メンバーの皆様、とりわけ正副委員長の皆様のご協力に感謝申し上げて財政局の報告と致します。





# ひとつづくり会員拡大委員会

## 委員長 山際 喬紘

### ①第32回わんぱく相撲県北場所について

本事業が大きな怪我もなく終えられたのは良かったと考えるが、昨年よりも参加者が減少するという課題を残す結果となってしまった。また、県北相撲協会によって当日、急にプログラムが変更になったためタイムスケジュールで設営面での段取りの悪さにより当日応援に駆けつけてくれたメンバーにも多大な迷惑をかけてしまったことは大いに反省するべき点である。

今回から福島青年会議所主催、県北相撲協会の協力と住みわけをしっかりとしたものの県北相撲協会が強いかかわっており、現実として福島青年会議所としては当日の設営の手伝い、チラシの配布しか携われていない事からメンバーの時間、会費を使ってまでわんぱく相撲事業を行う必要があるのか考えるべきではないかと感じた。

今後の参加推進方法としては、1つ例を挙げると昨年伊達市相撲振興協会が100人規模の子ども相撲大会が開催された実例があることから、次年度以降わんぱく相撲を盛り上げていくには、伊達市相撲振興協会主催の子ども相撲大会へ出向きわんぱく相撲参加の呼びかけ等を行うと共に福島青年会議所及び県北相撲協会が相互を尊重しあい、大会の設営のあり方を見直し、県北相撲協会が行ったわんぱく相撲大会での各小学校の上位入賞者が福島LOM大会に参加しブロック大会、全国大会へと進むのが望ましいのではないかと考える。

### ②第28回わらしっ子～サマーキャンプ～

委員長として貴重な経験とたくさんの知識、仲間がいる大切さなど計り知れない成長をさせていただきました。今回の事業にお手伝いをいただいたメンバーの皆様、そして、事業計画から準備・当日まで事業に向き合ってくれた委員会メンバーに感謝します。事業が終わった後には、タイムスケジュール・シミュレーションの甘さや自己の力の無さと統率力の無さにまだまだ勉強不足だったと痛感させられました。しかしながら、参加をした子ども達には感謝の気持ちや日常生活には様々な人が関わっていることを感じながら、一生の思い出づくりができた事業であったと感じております。たくさん子ども達が、郷土や家族・日常生活のありがたみを認識し、成長していったと切に願い、委員長の所見とさせていただきます。

### ③出張わらじづくり体験教室

当初5校の予定が4校に減ってしまったことは大変残念に思いますが、次年度以降、告知方法や参加推進方法を見直すことでさらなる素晴らしい事業に発展していくと確信します。今回、事業に参加された子ども達は

真剣な表情でわらじの制作に取り組んでいました。また、完成したわらじを履いて大きな声で「わっしょい」と掛け声をかけながら小わらじを担ぐ様子を見て、福島を代表するまつりである「わらじまつり」を肌で感じ、わらじ文化をより深く体験できたものと思います。各小学校から感謝の手紙を頂戴し、この事業の素晴らしさを実感することが出来ましたし、学校側から毎年授業の一環として取り入れたいとの声もあり、地域にとっての必要性も感じる事が出来ました。今回多くのメンバーに講師としてご協力頂き、事業を大成功に導くことが出来ました。ありがとうございました。

### ④2019年10月例会

今回の例会は、ひとつづくり会員拡大委員会での設営という事もあり、委員会の中には緊張や不安を持っていたメンバーがいた。16時からと早い時間から会場を借りていたため、しっかりと予行練習や会場準備をすることが出来た。本番では緊張することなく例会に臨めた。また、高橋美博君によるセミナーにおいてはアンケート結果からメンバー全員から行動し続けることの大切さを理解していただくことが出来た。これからの人生、生きるための考え方や失敗を恐れず行動し続けることが出来るきっかけになったのではないかと思います。

私含め、委員会メンバーも設営担当ではあったが一緒にセミナーに参加することが出来た。私自身も自分を信じ迷わず強い意志、信念を持ち行動していこうと思う。

最後に今回セミナーで学んだことを青年会議所運動や地域、会社でリーダーシップを発揮していただくためにも「自分自身」を信じて日々、行動していただきたいと願い、私からの所見とさせていただきます。

1年間ひとつづくり会員拡大委員会委員長として、貴重な経験と頼もしい仲間ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。また、当委員会の事業へ賛同いただきお手伝い頂きましたメンバーの皆様へ心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



# まつり伝承会員拡大委員会

## 委員長 渡邊 裕太

本年度は、福島のために・・・やったる！」をスローガンに委員会を運営して参りました。

第7回暁まいり福男福女競走では、多くの会員メンバー、関係諸団体の皆様より多大なるご協力を頂きました。また、多くのメンバー、企業様、個人様よりご協賛を頂きました。感謝申し上げます。

今回は昼間の開催となり、最大のメリットとしては、大わらじの奉納風景を参加者に見てもらい暁まいりの由来などの説明をすることができました。また、多くの子供たちに参加してもらうことができました。デメリットとしては、昨年参加していただいた福島ユナイテッドFCや自衛隊の参加を募ることができなかった事や大わらじ奉納のスケジュールと重なってしまうために関係団体から協力も募ることができませんでした。今回昼間開催ということもあり予定参加者数に至るか不安でしたが、継続事業ということもあり、口コミやSNS等で公式アカウントの作成、ラジオによる事業PRをさせていただいたこともあり過去最大となる676名の参加者を集めることができました。これにより、広報に予算をかけなくても十分に伝播力のある知名度の高い事業だということが実証できたと思います。そして、当日いわきのサンシャインマラソンが中止になったこともあり、多くの当日参加の申し込みをいただいたことから当日参加の枠も必要だと感じました。さらに、本年度も民放4社はもちろんNHKやNCVケーブルテレビ、ラジオ局でも事業の様子が放送され、NCVに関してはYoutubeにてタイムリーに事業の様子がUPされました。テレビ局には特集まで組んでいただき昨年以上の放映時間だったことも本事業の話題性を象徴する結果となりました。また、わらじ文化に対して理解が「深まった・興味が出た」という方が9割に達し、本事業の目的が達成できたと感じています。

そして、今後の開催時間の選定についてはアンケートの結果、過半数の方が昼間開催のほうが良いと答えています。例年開催日が曜日に関係なく暁まいり当日2月10日のため、参加しやすい時間を考慮したうえで選定する必要があると思います。

継続事業として知名度、話題性ともに年々高まっている本事業ですが、予算、運営体制、運営規模など今後どのようなビジョンを持って移行していくのか、さらに、暁参り事態の参拝者をどう増やしていくのか

等、しっかり次年度以降に引き継いでいきたいと思えます。

第50回わらじまつりは50周年を期に新旧交代が行われ、今まで長く実施されてきたわらじ競走を終了し、新たにわらじ太鼓を創設しました。大幅なりニューアルの為、不備や後手を多く踏むこととなったことで、数多くのご迷惑をおかけしました。また、実行委員会との連携が必要不可欠であった為、計画段階での実施内容の詳細決定が遅れたことで、会員メンバーへの詳細な説明が事業実施直前までできませんでした。参加した太鼓演奏者のメンバーにも、練習日や場所の変更などでご迷惑をおかけしました。次年度以降には早期の計画立案をしてもらいたいです。

今後継続事業としてどのような形でわらじまつりに関わっていくか、本年度だけでは不確定な部分が多いですが、地域社会の健全な発達に関わる事業として、地域のわらじまつりに関わり文化を継承していくべく、事業参加者を増やしていけるような内容に精査し引き継ぎをしていきたいと思えます。

わらじつくり体験教室においては今回も福島駅エスパルとウイズ本町の2会場にて開催させて頂きました。福島の玄関口である福島駅構内で開催できたことは、県内外の多くの方々にわらじまつりだけではなく、「わらじの文化」をより多く伝播できたと思えます。次年度以降、さらに広い会場の検討やご協力頂けるメンバーを増やすことでより参加者を増やすことが可能だと感じました。

また、わらじまつりの会場において自分で作ったわらじを持ち歩いている方々を何名か見つけることができ、本事業がわらじまつりにおいてもプラスの価値を演出できていると実感しました。

1年を通して当委員会の全ての事業に賛同いただきお手伝い頂いたメンバーの皆様、関係諸団体の皆様から感謝を申し上げます。次年度もやったれ！やったる！



# まちづくり会員拡大委員会

## 委員長 安部 守

本年度、まちづくり会員拡大委員会では、「紡げ!! 未来を!! ~今、私たちができることを~」のローガンのもと1年間活動して参りました。

5月には、第7回信夫山パークランニングレースを開催し、全国各地より1,300名を超える方にご登録いただきました。今年の新試みとしては、初めて小学生の部を設置し、大人だけではなく子供達にも、信夫山の素晴らしさや福島市の魅力を伝えることができました。また、信夫山の観光資源を高めるために、桜の木の植樹や、レース参加者と共にツツジの植樹も行ないました。

8月には元号が令和に変わってから初となる福島とうろう流し花火大会を開催し、夏の風物詩である花火を打ち上げることで中心市街地の賑わいの演出ができたのではないかと思います。

2月には災害時支援相互協力協定を結んでいる福島市社会福祉協議会と水害を想定した図上訓練を開催しました。また5月には福島市総合防災訓練への参加をし、市社協との連携や災害を想定し

た訓練を行なうことができました。その結果、10月に起きた台風19号による水害被害では、福島市社会福祉協議会と福島青年会議所の連携が協定を結んでから初めてだったにも関わらずスムーズに行なうことができました。今回の災害で思ったことは、災害が起きてからでは遅いこと、また、連携の重要性が分かりました。

最後に、1年を通して当委員会の事業にご協力をいただいた福島青年会議所メンバーの皆様、そしてOBの皆様へ感謝を申し上げ、すべての事業が滞りなく無事終了したことをご報告申し上げます。1年間本当にありがとうございました。



# 総務会員拡大委員会

## 委員長 丹治 史博

今年、例会の出席に関して、今までと評価方法を変えて運用してきましたが、忙しい中チェックに来てくださったメンバーの気持ちを無下にするのもなく、実際の参加に関しても評価に反映される今年の集計方法は、今までのチェックのみの方法に比較して、会のためになると考えます。この集計方法で高いスコアを目指していくには、例会の質を高める必要があり、結果メンバーの成長にもつながり、会の発展に結び付くと思います。力が及ばず私には新参加率で100%の例会を実施することはできませんでしたが、次年度以降、達成していただけること、例会が会員にとってより有意義に開催されることを心から願っています。

多くの方々に助けていただき、1年間委員長職を全うすることができました。特に委員会メンバー

の皆様には、委員長として至らない点多々ある中、1年間を通して支えていただき心から感謝しかございません。チームワークが強みの楽しい委員会でした。皆様のおかげで私にとってかけがえのない1年間になりました。関わったすべての方に深く感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。

